

# 情報システム学概論I - ITと経営課題を結びつけるものは何か？-

単位数	ナンバリングコード	
2	DBA306	
	教員名	明神 知
	専門	エンタープライズ・アーキテクチャ (EA)、システムダイナミクス、ビジネスイノベーション、情報セキュリティ・アーキテクチャ、サービスデザイン思考、ソフトウェア工学、教育工学、デジタルビジネス開発方法論
	出身校等	大阪大学 大学院 基礎工学研究科 修士課程修了
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 教授
<b>授業形態</b>		
前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業		
<b>授業範囲</b>	<b>試験範囲</b>	
インターネットメディア授業の範囲	授業の範囲 (第1回から第15回)  【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ (通信教育部POLITEを除く) と生成系AIの参照は不可とする。	
<b>科目の概要</b>		
インターネットやスマートホンによって情報技術 (IT) が社会のあらゆるところに活用されるに至り、企業情報システムはビッグデータやAIなどのデジタル技術を駆使したデジタルビジネスを生み出している。企業の主要な業務領域ごとにどのような情報システムがあるか概観することにより、ITの高度活用が、いかに企業の競争優位性の確立に有効であるかを学ぶ。		
<b>授業における学修の到達目標</b>		
今、経営とIT (情報技術) を結び付けられる人材が求められている。情報システムは、経営とITを結びつける手段である。企業は、情報システムを開発することで、現状を打破し、競争優位性を実現することができる。 本授業では情報システムとは何かを明らかにしながら、ソフトウェアやプログラミングなどのITと競争優位性が深く関わっていることを理解し、情報システムを開発するための基本的な考え方を学ぶ。		
<b>講義の方針・計画</b>		
本授業でのe-Learningは、インタラクティブな問合せ機能があるので、個々の学習者に合った内容で学ぶことができる。		
第1回 情報システムとは何か		
第2回 情報システムのライフサイクル		
第3回 情報システムの構成		
第4回 営戦略とシステム化計画		
第5回 業務改善と業務改革		
第6回 要件分析		
第7回 モデリング手法		
第8回 データモデル		
第9回 プロセスモデル		
第10回 プログラミング言語とアプリケーション		

<b>講義の方針・計画</b>
第11回 データベースとデータベース管理システム 第12回 ネットワークと情報システム 第13回 情報セキュリティ 第14回 プロジェクトマネジメント 第15回 情報システムの最新動向(デジタルビジネス)
<b>準備学習</b>
インターネットメディア授業において、以下の準備学習を行う。 (予習) 授業を受けるための準備として、「科目の概要」や「科目の目標」「講義の方針・計画」に書かれたキーワードをネット検索し、その意味をつかんでおく。2時間 (復習) 各回の練習問題について、正解不正解を記録し、不正解については、解説映像を見て復習を行う。2時間
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</b>
課題や教材に関する質問に回答する IM授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
科目試験による評価100%
<b>教科書</b>
なし
<b>参考書</b>
IT Text 情報システムの分析と設計 オーム社 伊藤・明神ほか ISBN 978-4-274-22817-9
<b>その他</b>
なし
<b>試験期間</b>
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024学年暦」を参照
<b>学習プリント</b>
<b>教職科目</b>
情報5の1 (選択)
<b>関連受講科目</b>
情報システム学概論Ⅱ デジタルマーケティング ソフトウェア
<b>担当教員の実務経験</b>
あり 実務経験(情報システム会社におけるITコンサルティング AIシステム開発 DWH開発、大規模プロジェクト管理、ERP導入支援 CIO補佐官業務 情報サービス産業白書部会長 EAコンサル)を活かして実践的な教育内容にすることと、質疑に対して実務での応用例を交えて答える。